

(仮訳)  
共同コミュニケ  
第26回日中韓三カ国環境大臣会合  
2025年9月28日 於：中国・煙台市

## 前文

1. 黄潤秋中華人民共和国生態環境部長、浅尾慶一郎日本国環境大臣、金星煥大韓民国環境部長官は、2025年9月28日に中華人民共和国煙台市を訪れ、第26回日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM26）を開催した。

## 三カ国における環境政策に関する最近の進展

2. 三大臣は、TEMM25 以降の各国の環境政策における最近の進捗を共有した。黄潤秋部長は「日中韓環境協力の新たな旅立ち クリーンで美しい世界のために、より大きな貢献を共に」、浅尾慶一郎大臣は「日本における主要な環境政策の総括と展望」、金星煥長官は「炭素ベースの文明から脱炭素化されたグリーン文明への移行」を発表した。三大臣は、三カ国のこのような取組が、北東アジアにおける持続可能な発展の達成に資するとともに、各国、地域及び地球規模の環境問題の解決に寄与するとの認識を共有した。

## 日中韓三カ国共同行動計画（2021年～2025年）の実施に関する最近の進展

3. 三大臣は、TEMM25 以降の第3次日中韓三カ国共同行動計画（2021年～2025年）（TJAP 2021-2025）の実施における進展についてレビューした。三大臣はTJAP 2021-2025の8つの優先分野の下での協力プロジェクトの進展に満足の色を表するとともに、三カ国の協力を引き続き推進していく決意を示した。

## 大気環境改善

4. 三大臣は、2025年7月10日～11日に日本の新潟市で開催された第12回大気汚染に関する日中韓三カ国政策対話（TPDAP）において、オゾンと

PM2.5 の管理に関する最新の専門知識と技術や大気環境管理に関する政策を共有したことを歓迎した。三大臣は、TPDAP の第 2 期アクションプラン（2021 年～2025 年）の実施に沿った TPDAP 及びその他の共同活動で達成された進展を評価し、第 2 期アクションプランの進展と成果を強調した政策報告書が作成されることについて確認した。三大臣はまた、第 3 期アクションプラン（2026 年～2030 年）の採択を歓迎した。三大臣は、TPDAP 等を通じたこうした協力の努力が三カ国の大気環境改善に大きく貢献しているという認識を共有した。

5. 三大臣は、2024 年 10 月 10 日～11 日に日本の新潟市で開催された第 17 回黄砂ワーキンググループ I（WGI）、2025 年 6 月 30 日～7 月 1 日に韓国のソウル市で開催された第 18 回黄砂ワーキンググループ I（WGI）を歓迎した。三大臣は、WGI の第 3 期中期行動計画（MTAP）が成功裏に完了したことを評価するとともに、特にモンゴルとの協力に関して、第 4 期中期行動計画（2026 年～2030 年）の採択を歓迎した。三大臣は、2024 年 11 月 7 日～8 日に韓国の群山市で開催された第 17 回黄砂ワーキンググループ II（WGII）を歓迎した。会合では、第 3 期中期行動計画の実施状況をレビューし、次期中期行動計画の策定について議論した。三大臣は、第 18 回黄砂ワーキンググループ II が 2025 年 11 月に中国で開催されることを歓迎した。

### 3R/循環経済／ゼロ・ウェイスト都市

6. 三大臣は、2024 年 12 月 20 日に日本で開催された第 17 回日中韓 3R/循環経済／ゼロ・ウェイスト都市に関するセミナーの成果を歓迎した。本セミナーでは、三カ国でのプラスチック廃棄物管理、循環経済、ゼロ・ウェイスト都市に関する政策、実践、進捗状況について共有、議論された。

### 海洋環境・水環境の保全

7. 三大臣は、2025 年 2 月 24 日～25 日にラオスで開催された第 20 回アジア水環境パートナーシップ（WEPA）年次会合及び国際ワークショップについて確認した。会合では、韓国の光州広域市流域や日本の伊勢湾、中国の長江流域を含む、流域における水質改善、生態系の保全及び再生に関する経験を共有した。三大臣は、2025 年 9 月 8 日～9 日にマレーシアで開催された第 21 回 WEPA 年次会合についても留意した。会合では、規制の遵守

に向けた産業排水管理に焦点が当てられた。さらに三大臣は、三カ国の海洋ごみ対応能力強化に向けた共同研究や調査プロジェクトを行う用意があることを表明した。

## 気候変動

8. 三大臣は、2025年9月25日～26日に中国で開催された第10回日中韓カーボンプライシングメカニズムフォーラムを歓迎した。会合では、NDC達成におけるカーボンプライシングメカニズムの支援的役割を議論し、三カ国における炭素価格設定の最新動向、主要施策、課題、教訓、展望を共有し、パリ協定第6条に基づく国際炭素市場を含む炭素市場への影響について議論した。三大臣は、汚染防止と炭素排出削減の相乗効果を含む気候変動分野での協力を推進する用意があることを表明した。三大臣は、2025年2月18日に中国主催でオンライン開催された第7回日中韓カーボンニュートラル都市フォーラムを歓迎した。会合では、三カ国におけるカーボンニュートラル都市開発やカーボンフットプリント政策の最新の進展が共有された。三大臣はまた、2025年7月23日に日本、中国の参加者とともに韓国ソウル市で開催された2025年気候変動適応国際シンポジウムについて歓迎した。会合では、三カ国が国および地方レベルでの気候変動適応プログラム及びベストプラクティスを紹介した。

## 生物多様性

9. 三大臣は、2025年8月26日～27日に韓国で開催された第11回日中韓生物多様性政策対話（TPDB）の成果を歓迎した。会合では、生物多様性国家戦略及び行動計画の指標と第7回国別報告書、ABS及びカリ基金、民間セクターからの参加について議論を実施した。三大臣はまた、第11回TPDBと併せて開催された日中韓外来種専門家会合の成果を歓迎した。本会合では、侵略的外来種への対策に関する情報を共有し、今後の協力を確認した。

## 化学物質管理と環境に関する緊急時対応

10. 三大臣は、2025年7月17日～18日に日本の山形市で開催された第19回日中韓化学物質管理政策対話（TPDCM）及び日中韓化学物質管理専門家会合（TESCM）の成果を歓迎した。これらの会合では、三カ国の化学物

質管理政策や化学物質の危険性試験及び環境リスク評価の技術が共有された。三大臣はまた、2026年～2030年におけるTPDCMの新たな共同行動計画の採択を歓迎した。

#### *グリーン経済への移行*

11. 三大臣は、エコラベルに関する三カ国協力の進展を歓迎し、2024年12月に屋内床材に関する相互承認協定（MRA）が署名されたことを評価した。三大臣はまた、2025年9月11日～12日に日本の東京で開催された第22回エコラベルに関する日中韓実務者会合を歓迎した。本会合では、2025年12月のMRA署名に向けてLEDランプに関する三カ国標準について議論が行われた。

#### *環境教育、市民啓発及び市民関与*

12. 三大臣は、「過去から、現在、未来をつなぐ」をテーマとして、2024年10月26日～29日に日本の京都市で開催された第25回日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）シンポジウムを歓迎した。三大臣は、「グリーン・パスウェイズ：環境フィールドスタディの革新によるエコロジカル・シチズンシップの推進」をテーマとして、2025年12月に中国で開催される第26回TEENシンポジウムを歓迎した。三大臣はまた、「循環経済と資源効率性」をテーマとして、2024年11月5日～8日に日本の北九州市で開催された第22回日中韓三カ国合同研修を歓迎した。

#### *日中韓三国協力事務局（TCS）*

13. 三大臣は、2025年3月に中国の深圳市で日中韓三国協力事務局（TCS）によって開催された日中韓カーボンニュートラル目標に関する第4回フォーラムの成果を歓迎した。三大臣は、TEMMの枠組みにおけるTCSの貢献を認識するとともに、TJAP（2021年～2025年）、TJAP（2026年～2030年）の実施におけるTCSとの継続的な協力を歓迎した。これには、三カ国間の循環経済教育における協力を強化するための第4回日中韓三国教員交流プログラム（TTEP）を通じた取組も含まれる。

#### *日中韓三カ国環境研究機関長会合（TPM）*

14. 三大臣は、中国の中国環境科学研究院（CRAES）、日本の国立環境研究所（NIES）、韓国の国立環境科学院（NIER）の間で、第22回日中韓三カ国環境研究機関長会合が2025年11月に中国の広州市で開催されることを留意し、TEMMの枠組みにおける政策協力のための科学的なリファレンスを提供し、三カ国間の研究協力をさらに強化するよう奨励した。

### 主要地域及び地球規模の環境課題に係る協力の推進

15. 三大臣は、グリーンリカバリーと持続可能で包摂的な開発を促すために、それぞれの国情に照らして、気候変動、生物多様性の損失、環境汚染への対策を強化し、グリーンな低炭素開発／ネットゼロ経済・社会／カーボンフリー社会への転換を加速し、人類と自然の調和を促進し、地球環境ガバナンスを改善する努力を追求するとの約束を再確認した。

#### 気候変動

16. 三大臣は、世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも2°C高い水準を十分に下回るものに抑えること、並びに世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも1.5°C高い水準までのものに制限するための努力を追求するというパリ協定の気温目標へのコミットメントを再確認し、これにより気候変動のリスクと影響を大幅に削減できることを認識した。

#### 生物多様性

17. 三大臣は、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）にて採択された昆明・モントリオール生物多様性枠組（KM-GBF）の迅速、完全かつ効果的に実施することへの決意を示し、他の国も同様に実施することを奨励した。三大臣は、侵略的外来種が東アジアにおいて喫緊の課題となっていることで意見を共にし、引き続き情報共有を行い、対策に関する協力を強化していくとの認識を確認した。

#### プラスチック汚染

18. 三大臣は、海洋環境等を含むプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第5回政府間交渉委員会再開会合（INC5.2）で行われた取組を確認し、プラスチック汚染に対するフォローアッププロセスと継続的な取組を行う決意を示した。三大臣は、UNEA 決

議 5/14 の権限に沿った包括的アプローチに基づき、次回再開会合（INC5.3）においてその作業を完了することを目指し、海洋環境を含むプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書の策定に取り組む決意を再確認した。三大臣はまた、セミナーやその他の活動を通じて、循環経済及びプラスチック廃棄物管理に関する政策及び情報交換を継続し、強化する意思を表明した。三大臣は、海洋環境等を含むプラスチック汚染に関する科学的及び技術的な知見を強化することの重要性を認識した。

### 地域における大気汚染

19. 三大臣は、この地域の大気環境の改善に貢献してきた東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）及び北東アジアクリーン・エア・パートナーシップ（NEACAP）の協力活動の進展を確認した。

#### 「3+X」協力

20. 三大臣は、黄砂削減のための三カ国とモンゴルとの間での協力の進展について留意した。三大臣はまた、三カ国間の協力の恩恵が他の国々にも波及し、三カ国が他の地域とともに繁栄できるように、「三カ国+X」の協力を推進していく意思を共有した。三大臣は、多国間主義へのコミットメントを再確認し、UNFCCC COP30、CBD COP17 及び G20 関連会合を含む、今後の主要な地域及び地球規模の環境会議における三カ国間での緊密な協力への期待を示した。

### 環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画（2026年～2030年）の採択

21. 日中韓サミットでなされ共同宣言に明記されたコミットメントを想起し、三大臣は、第 4 次日中韓三カ国共同行動計画（2026 年～2030 年）（TJAP 2026-2030）を採択した。この行動計画では、2030 年までの三カ国環境協力のビジョン、原則、目標を規定し、TEMM25 で採択された以下の 8 つの優先分野における具体的な行動と実施計画を定めている。

#### 環境の質の改善

- (1) 大気汚染及び黄砂
- (2) 生物多様性
- (3) 3R／循環経済／ゼロ・ウェイスト都市及びプラスチック汚染

#### カーボンニュートラル及びグリーン経済の推進

- (4) 気候変動
- (5) グリーン経済への移行

環境福祉の向上

- (6) 環境教育及び啓発
- (7) 化学物質環境管理
- (8) 生活環境

- 22. 三大臣は、共同の取組を通じて TJAP 2026-2030 の成功裏の実施に向けたコミットメントを共有した。三大臣は、本行動計画の実施が持続可能な開発目標やパリ協定などのグローバル目標の達成、ならびに地域におけるグリーン・トランスフォーメーションの促進に貢献することを期待した。
- 23. 三大臣は、日本で開催される第 10 回日中韓サミットに、TJAP 2026-2030 を提出することに合意した。

#### **日中韓環境ユースフォーラム及び日中韓環境ビジネス円卓会議**

- 24. TEMM26 のサイドイベントとして、日中韓環境ユースフォーラム及び日中韓環境ビジネス円卓会議（TREB）が開催され、討議の結果が三大臣に報告された。三大臣は、「気候変動に強い未来へ～ユース・エンパワーメントで社会を変える～」について討議した日中韓環境ユースフォーラムの成果及び「カーボンニュートラルに向けて 気候変動への積極的対応とグリーン・低炭素への移行の推進」について討議した TREB の成果を歓迎した。TREB では、グリーンファイナンス、循環経済、ESG、グリーン技術に関する国際協力の分野において、カーボンニュートラルを達成するための三カ国の政府と産業界の取組について情報共有された。

#### **TEMM26 日中韓環境協力功労者表彰**

- 25. 三大臣は、日中韓環境協力功労者表彰の受賞者を祝福し、顕彰した。中国のリ・シャ氏、日本の谷本浩志氏、韓国のソン・ミエイ氏が、三カ国間の環境協力への貢献に対し表彰された。

#### **TEMM27**

- 26. 三大臣は、TEMM27を2026年に日本で開催することを決定した。開催日、開催場所は、主催国が提案し、その後韓国と中国が確認する。

## 終わりに

27. 三大臣は、TEMM26が実りある成果を収めたことに満足の意を表した。浅尾慶一郎大臣と金星煥長官は、黄潤秋生態環境部長、中国政府、ならびに山東省に対して、会議のホストと全ての参加者への手厚いおもてなしに深い感謝の意を表した。

---

浅尾慶一郎  
日本国 環境大臣

---

金星煥  
大韓民国 環境部長官

---

黄潤秋  
中華人民共和國 生態環境部長